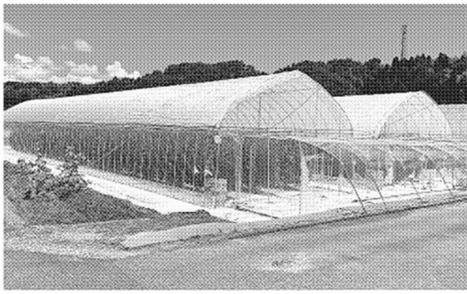


光通し、熱遮断するネット

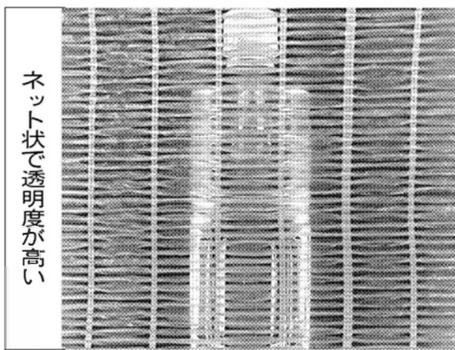
化成協会ウェーブプロックホールディングス子会社で建築・農業資材などを手掛けるイノベックス（東京・中央）は、植物の生育に必要な光を通しつつ熱を遮断できるネットを開発した。ビニールハウスに取り付け、内部の最高温度をセ氏3〜6度下げ、猛暑による農作物の生育不良の改善や作業員の熱中症予防につながるという。

ビニールハウスにかぶせるように取り付けることで遮熱効果を発揮する。特殊な熱線吸収剤を含む透明度の高い素材を織り込んだ。同等の遮熱性能を持つ製品と比較して光合成に必要な光を遮りにくく、暑さ対策と光の確保を両立できる。地球温暖化に伴う気温上

イノベックス



ビニールハウスの外側に取り付けて熱を遮断する



ネット状で透明度が高い

昇で農作物の生育障害や品質低下が課題になっていた。農家は遮熱資材の導入などで、年10月に発表したりポット対策を急ぐ。同製品を使った試験で、高温によって、トマトの着ハウス内の最高温度をセ氏

野菜の生育不良防止に

質の確保につながる。

従来品よりも遮熱性能を長く継続できる点も特徴だ。従来は熱線の吸収剤に有機物を使っていることが多く、紫外線によって成分の分解が進むため性能を長く維持できなかった。今回「ダイオネオシールド」の製品では無機物の吸収剤を採用することで経年劣化を防ぐことができた。耐用年数は約5年を見込む。

同社によると、光を通す従来の吸熱資材の導入は30万円、3年目には500万円や設置のしにくさが課題だった。同社の製品は標準的な300平方メートルのハウスなら11万円程度の投資で済む。軽く張りやすいことや劣化しにくい特長で顧客の獲得を目指す。

トマトやイチゴといった農家数の多い作物のほか、本来暑さに強いキュウリやスイカなどの栽培などにも需要を見込む。ハウス内で作業する人の負担軽減も期待できる。農作物の生産者のほか、すだれの代替としての一般的な需要も見込む。「ダイオネオシールド」の製品では無機物の吸収剤を採用することで経年劣化を防ぐことができた。耐用年数は約5年を見込む。同社によると、光を通す従来の吸熱資材の導入は30万円、3年目には500万円や設置のしにくさが課題だった。同社の製品は標準的な300平方メートルのハウスなら11万円程度の投資で済む。軽く張りやすいことや劣化しにくい特長で顧客の獲得を目指す。

トマトやイチゴといった農家数の多い作物のほか、

（鈴木麻佑子）